

# ウドー・ウルフコッテの『買収されたジャーナリスト』の 英語版が発禁？

【訳者注】ウドー・ウルフコッテ（本年 1 月没）については、このサイトで早くから注目し、ジャーナリストの勇気ある決断の鏡として取り上げている。論者は、ジャーナリスト志望の若い人々に、この本を読んでよく考えよと言っているが、私も同じ忠告をしている。本は読まなくてよい。彼のビデオ告白と、ここにあるような解説を読むだけで十分である。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160205.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170628.pdf>

これはジャーナリストになるな、ということでない。むしろこの業界を徹底的に改革するために、必死の覚悟で飛び込んでほしいということだ。前にも書いたように、現在、ジャーナリストは、その判断ひとつで、人類の敵にも、救世主にもなれる“聖職”についている。これを誇張だと言う人は、世界情勢を全く理解していない人である。

「自由について——トムからの一言」の冒頭にある言葉を少し変えて、「ジャーナリストが他者の苦しみを無視するならば、ジャーナリストとはいったい何だ？」とすることができよう。正義感とか義憤といった根本的動機をもたないジャーナリズムに、我々は背を向けるだけである。

James F. Tracy

August 1, 2017, Information Clearing House



ドイツのジャーナリスト Udo Ulfkotte のベストセラー『買収されたジャーナリスト』（Gekaufte Journalisten, (英) Bought Journalists) の英訳版が、北米とヨーロッパ全域で、発売禁止された模様である。2017年5月15日、Next Revelation Press（米・カナダをベースとする出版社 Tayen Lane のインプリント）が、この本の英訳を *Journalist for Hire: How the CIA Buys the News*

（御用ジャーナリスト：CIA がニュースを書かせ支払っている）として発売した。

Tayen Lane はそれ以来、この本への言及を、そのウェブサイトからすべて取り除いている。

それに呼応して Amazon.com も、この本は「現在、入手不能」、ただし独立販売者からの購入の機会はあるとし、中古品の最低価格は 1309.09 ドルだと言っている。この本の扱っている内容と、市場からの不可思議な消失から、いかに強力な権力が、その普及を妨げようとしているかがわかる。

『買収されたジャーナリスト』は、2014 年の発売につづいて、ドイツの主流ニュースメディアから、ほとんど完全に無視された。「どんなドイツの主流ジャーナリストも、私の本について報道することを許されていません」とウルフコッテは述べた。「それをやれば、彼または彼女はクビになるでしょう。だから、ここには、どんなドイツのジャーナリストも、書くことも話すこともできないベストセラーがあるのです<sup>1</sup>」

こうした方針に沿って、英訳の出版も繰り返し遅延された。私が 2015 年 12 月初め、この本の懸案の翻訳について訊ねると、ウルフコッテに連絡したとき、彼は「英訳版については、ここにリンクがありますのでどうぞ」と言ってきた。

<http://www.tayenlane.com/bought-journalists>

この、かつてこの本を説明し、発売予定時期を知らせていたアドレスは、今は空白ページになっている<sup>2</sup>。Tayen Lane 社は、この本の消失の説明を求める E メールにも電話にも応じていない。

出版社が、“政治的に” 危ういか、何か別のことで“面倒を起こす” 本を引き受けたと判断した場合、それは業界で“privishing” として知られる方法を取ることがある。「Privishing とは privately publish (ひそかに出版する) をくっつけた言葉で、一般大衆に開かれた本当の出版とは反対のものだ」と調査ジャーナリストの Gerald Colby は書いている。

Privishing は、しばしば著者に知らせないで行われる。それは単に契約違反や、責任問題が起こる可能性があるからである。しかし Tayen Lane はこの場合、どんな法的な問題も起こすことはないだろう。ウルフコッテは 2017 年 1 月 13 日、56 歳で、心臓発作のため亡くなった<sup>4</sup>。

ウドー・ウルフコッテは、著名なヨーロッパのジャーナリスト、社会学者、移民改革活動家である。『買収されたジャーナリスト』を書き、最も重要なメディア産業の一員でありながら、深層国家への警告者の一人となったとき、ウルフコッテは、ドイツの国家警察による繰り返される家宅捜索に苦しめられ、自分の生命の危険を感じた。彼はまた、1988 年のイラクのクルド地域での毒ガス攻撃を目撃したことから生じた健康問題が、前からあったこ

とを認めていた。

情報局がいかにか、西洋のジャーナリズムに中心的に登場するかというウルフコッテの証言が、特に説得力をもつ理由は、彼が長年、主流ニュース・ネットワークの上層部で仕事をしていたからである。このドイツのジャーナリストは、1980年代に、どのように自分がスパイ組織に取り込まれたかを説明している。これは、彼の卒業校のアドバイザーの勧めから始まったことで、ボンで行われた、冷戦に関する2週間のセミナーへ、全費用主催者持ちで出席することから始まった。

ウルフコッテが博士号を取得した後、彼は、ドイツの主導的な保守系新聞、フランクフルター・アルゲマイネの記者としての仕事を与えられた。これは、ジャーナリストの訓練を与えられたのでもなく、他に志願者が何百人もいた中で、不思議な任命であった。中東全体にわたって特派員として勤務しながら、ウルフコッテは最終的に、CIA、ドイツ情報局 (BND)、英 MI 6、それに、イスラエルのモサドの諜報員と知り合いになった。彼らのすべては、西洋に近い国々に自由に旅行できる彼の身分を羨ましがった。彼の編集者たちは、このような情報収集作業に、易々と協力してくれた<sup>5</sup>。このような特殊の立場のジャーナリストのことを、“非公式諜報員”と言う。

<https://youtu.be/sGqi-k213eE> (CIAの圧力の下で、アメリカのための物語を書くヨーロッパのメディア——ドイツのジャーナリスト)

「“非公式諜報員”とは、ジャーナリストが本質的にCIAのために働いているが、それは公式の職務ではない場合にそう言われます」とウルフコッテは説明する。「このやり方は、両当事者ともこの契約の報酬を得るが、同時にそれは両側に、もっともらしい否定の口実を与えるものです。CIAが若いジャーナリストを選んで、個人教育します。突然、ドアが開いて、報酬が入ってきます。そして自分でも気づかぬうちに、あなたは自分の全生涯を彼らに捧げてしまうのです。それが基本的なその仕組みです<sup>6</sup>」彼はまた、後悔して「CIAや他の情報局、特にドイツの秘密部局の職員が書いた論文を、自分の名前で公表した」ことを認めている<sup>7</sup>。

ウルフコッテの、主流メディアと情報部共同体の関係についての、インサイダー知識が特に重要な意味をもつのは、CIAのウィキリークスに対する反感の情報や、トランプ政権の“ロシアとの絆”と言われるものを中心とする、メディアの宣伝キャンペーンについての、情報に関してである。同時にそれは、トランプが、米メディアの政治的偏見や深層国家との結びつきを、しばしば主張することに真実性を与えている。実際ウルフコッテは、死のわずか2日前に、まさにこれらの主題について、“ツイート”した。

<https://twitter.com/UdoUlfkotte>

ウルフコッテの爆発的暴露は、企業ニュースメディアが現在、直面している精査の必要性を、さらに強化する潜在能力を、依然としてもっている。思想や表現の自由にリップ・サービス以上の価値を与える社会であるなら、『御用ジャーナリスト』は、大学生の必須読み物になるであろう——特に、ジャーナリズム計画を学んでいて、メディア産業に職を求めようとする人々にとっては。

実は、ジャーナリズムの教授たちの中には、声望あるニュースメディアでの長い生涯の後で、アカデミーに移ってきた人々もあって、ウルフコッテの説明しようとする諸関係について、同じインサイダー知識をもっている。ジャーナリストかつ教育者である者として、彼らは2重の責任を負っている。これが今まで以上に強調されなければならないのは、彼らがかかわっているプロの、知的な企ての全体が（そしてそれは、国家の加速度的な市民の劣化に直接つながって）滑稽劇になっているからである。『御用ジャーナリスト』の発禁は、いかにウルフコッテの死後の検閲者たちが、この重要な調査と浄化を、妨害しようとしているかを示している。

## Notes

[1] Ralph Lopez, "[Editor of Major German Newspaper Says He Planted Stories for CIA](#)," Reader Supported News, February 1, 2015.

[2] Udo Ulfkotte to James Tracy, email correspondence, December 6, 2015. In author's possession.

[3] Gerard Colby, "The Price of Liberty," in *Into the Buzzsaw: Leading Journalists Expose the Myth of a Free Press*, Kristina Borjesson, ed., Amherst NY: Prometheus Books, 2002, 15-16.

[4] Former US military intelligence officer L. Fletcher Prouty relates a similar experience of how publication of his book, *The Secret Team: The CIA and Its Allies in Control of the United States and the World*, was greeted in 1972. "Then one day a business associate in Seattle called to tell me that the bookstore next to his office building had had a window full of books the day before, and none the day of his call. They claimed they had never had the book. I called other associates around the country. I got the same story from all over the country. The paperback had vanished. At the same time I learned that Mr. Ballantine had sold his company. I traveled to New York to visit the new 'Ballantine Books' president. He professed to know nothing about me, and my book ... The

campaign to to kill the book was nationwide and worldwide. It was removed from the Library of Congress and from College libraries as letters I received attested all too frequently.” Prouty, *The Secret Team: The CIA and Its Allies in Control of the United States and the World*, New York: SkyHorse Publishing, 2008, xii.

[5] Ronald L. Ray, “[Reporter Admits Most Media Work for CIA, MI6, Mossad](#),” American Free Press, October 26, 2014. See also Tyler Durden, “[German Journalist Blows Whistle on How CIA Controls the Media](#),” *ZeroHedge*, October 9, 2014; Udo Ulfkotte, “[German Politicians Are US Puppets](#),” Center for Research on Globalization, November 9., 2014.

[6] Durden, “[German Journalist Blows Whistle on How CIA Controls the Media](#).”

[7] Lopez, “[Editor of Major German Newspaper Says He Planted Stories for CIA](#).”

The original source of this article is Global Research - Copyright © [James F. Tracy](#), Global Research, 2017